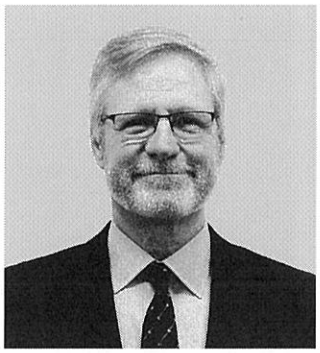
アンビシャス
抱負を語る



積水フーラー
代表取締役社長
スコット・パーギャンディー氏

日本の顧客は常に真剣

少しずつでも着実な変革が成功の鍵に

（3月10日号6面のつづき）

常に努力し優れた製品を提供する姿勢は、親会社の積水化学工業とH．B．フーラーにも共通したものであり、それぞれが社会課題の解決に向けた積極的な貢献を目指しています。

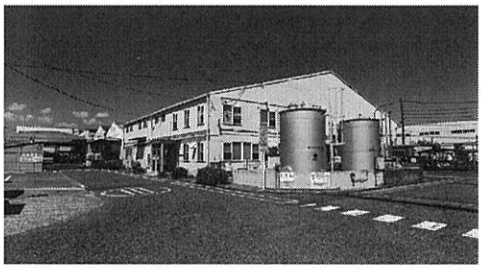
その社会課題とは、最近であれば環境問題やドライバー不足が深刻化する物流問題が挙げられます。物流課題については、単にドライバー不足の問題だけではなく、物流効率や物流工程で発生するごみ問題などのさまざまな課題があることが分かっています。その課題を当社のホットメルト接着剤の技術で解決したいと考えております。（次号以降に関連記事）

私は2023年7月から積水フーラーの代表取締役社長を務めていますが、日本は決して簡単な市場ではありません。お客さまの多くは環境問題とコスト削減に真剣に取り組まれていることから、当社が何を提供できるかを、常に重要視する必要があるからです。

お客さまが新しい技術を受け入れる姿勢は、多くの国や地域でも同様です。言い換えるならば、そのようなお客さまからのニーズを受けて、製造者側が変化せざるを得ないという状況が、近年は加速しているように感じます。

特に若い世代は発想が柔軟なので、さまざまな新しい要望やご提案をお寄せくださいます。そんな彼らの声をオープンマインドで受け入れ対応することが、当社にとって新たなビジネスチャンスにもつながると考えます。

継続的に、少しずつでも確実に変革を積み重ねる、これが結局は成功につながると思います。そのスタンスで当社は、設立から20年間、日本での展開を続けてきました。これは次の20年に向けても同様であり、明るい未来を見据えつつ、一足飛びではなくコツコツと積み上げていく努力が重要でしょう。



重要な製造拠点の一つとなる浜松工場

今後も新しい製品や新たなソリューションに向けての研究開発を継続します。それによって、当社の事業拡大だけでなく、ホットメルト接着剤の市場拡大にも貢献したいですね。（おわり）（姉妹誌「月刊食品包装」25年1月号から転載）